



〈ふれあいまつり〉
バルーンアートで大盛り上がり!!

国民の九七パーセントが「幸せ」と感じている国があります。中国とインドに挟まれたヒマラヤの奥地にあるブータンという国です。はじめてその話を聞いた時、「えっ、そんな国あるの?。信じられない。」とおどろきました。そんなある日、本屋さんで「幸福王国 ブータンの智慧」(アスペクトブータン取材班 アスペクト発行)という一冊の本を見つけました。「国民のほとんどが幸せだと感じているブータンってどんな国だろうか。」「どんな秘密があるんだろうか。」「興味津々に読んでみました。」

ブータンはGNP(国民総生産)のかわりにGNH(国民総幸福)をうたい、幸せのガイドラインに四つの柱(持続可能で公平な社会経済開発)へヒマラヤの自然環境の保護)へ有形・無形文化財の保護(良い統治)を掲げ、取り組んでいます。特に人々のつながりがある社会づくり、みんなで幸せになろうという考え方が、生活文化や人間関係を大切にしているということが印象に残りました。また、こどもたちにはふるさと自然や伝統文化に誇りをもち、受け継いでいくことや自分らしさを大事に自分や他者を大切にすることを大人がしっかりと教育していました。ブータンの文筆家の方のインタビューの中に「コミュニティでつながり、村全体が助け合い、支え合っている、だから、人々はだれもが幸せで、相手を信用し、感謝を忘れない、こういうことがブータンの人々を笑顔にさせている」という言葉がありました。これこそがまさに地域共生社会です。みんなが幸せと感じられるまちづくりのヒントがここにあると思いました。

私は以前、川津小学校に八年間勤務していました。その時に感じたのは、川津には歴史、伝統文化、史跡、自然が豊富にあり、地域の皆さんが熱心にこどもたちと関わり合い、みんなで川津のこどもたちを育てているということ。そのような関わりの中でふるさと川津を好きになり、川津の「ひと・もの・こと」に触れながら生活することで、人と人のつながりを大切に、支え合う関係ができるのだと思います。

菅田会館は福祉と人権のまちづくりをめざし、福祉の向上や人権啓発のための住民交



みんなが幸せと感じられるまちへ

松江市立菅田会館 館長 吉田 徳 人

流の拠点となるコミュニティセンターとしての役割をもった施設です。人と人のつながり、交流を意識した事業、人権啓発、相談事業など様々な取組の中でみんなが幸せだと感じられる地域共生社会をめざしています。

今年度もたくさんの皆さんに来館していただき、特にふれあいまつりでは約三百人の来場があり、コロナ禍以来、久しぶりのにぎわいを見せました。また、スポーツ交流会でははじめてeスポーツに挑戦し、様々な世代の皆さんの交流がありました。

これからも川津の皆様ともに、みんなが幸せと感じられるまちづくりに貢献したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



〈スポーツ交流会〉
体と頭を使って、楽しく体験できましたよ!!

本号では人権教育特集号として川津地区内の各学校で行われている人権教育の取り組みを紹介しています。公民館でも川津地域人権・同和教育推進協議会が中心となり、人権課題の解決に向けて活動しています。



松江市立川津幼稚園

まほうのことば「それいいね」

今年度は全園児、全職員みんなで歌う“らららタイム”に取り組みました。その中で歌っている歌「まほうのことば」の歌詞の中の「それいいね」の言葉は、こども達が自分や友達のことが好きになる合言葉として親しんでいます。遊びや生活の中で「それいいね」と認め合ったり、遊びの名前に「それいいね」を取り入れたり、歌のイメージを膨らませた造形活動に取り組んだりしました。



「地域の方に歌を聴いてもらったよ」



「“それいいね”のおとがいっぱいだよ」



「心にお花が咲く、勇気がでる、自分のことが好きになる言葉がいっぱいあるよ」



「それいいねやさん」で、年中・年少児がごっこ遊びをしました。自分のイメージしたものを作ったり、お店屋さんになりきったり、「それいいね」「たのしそうだね」「すてきだね」と先生や友達、お家の方や未就園児の小さなお客様と一緒にやり取りを楽しみました。



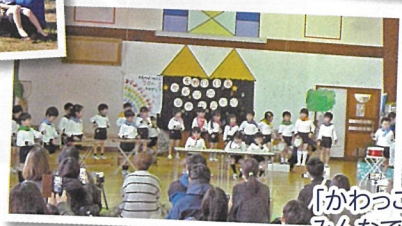
年長児のおはなしタイムの様子です。自分の思いを言葉にしたり、友達の思いを聞いたりして一緒に考え工夫しながら遊びや生活を進めることを大切にしています。1年間継続して行うことで、相手の心に気持ちをむける優しさや言葉で表現する力が身につけていきます。

今年度は幼稚園 創立70周年!!

今年度は幼稚園創立70周年をお祝いして、運動会や発表会の名前に「70さい それいいね おめでとう」とつけました。大好きな川津幼稚園でこれからも楽しい思い出がたくさん作れますように。



「地域の方のあたたかさを
感じながら…」



「かわうそなかよし会
みんなで合奏したよ」

今年度の取り組みをもとに、来年度は

“あのこのことばが ぼくをかえる ぼくのことばで あのこがかわる じぶんのことがもっとすきになる”
一年にしていきたいと思います。



松江市立川津小学校

学校教育目標

ふるさとや仲間とのあたたかいつながりの中で、自ら考え、最後までやりぬく川津っ子の育成

人権教育目標

人間の尊厳を自覚し、いじめや差別をなくす強い意志と連帯して問題を解決していこうとする実践力のあるこどもを育てる。

令和6年度の具体的な取組より

●人権に関わる学習(※ねらい)

1年生「新入生との交流会」(生活)

※新入生に学校のことをわかりやすく伝えたり、学校の楽しさを伝えたりするための準備や取り組み、関わり方を考えることで、温かく優しい気持ちで新入生を迎えることができるようにする。

2年生「おへそのひみつ」(学級活動)

※おへその役割を知ることを通して、自分たちは、お母さんのおなかの中で大切に育てられたことを知り、自他の命を大切にしようとする態度を育てる。

3年生「なかよしだから」(道徳)

※友達のことをよく考えて、友達を大切にしようとする態度を育てる。

4年生「泣いた赤鬼」(道徳)

※青鬼を失って初めてその友情に気づき、泣いて悲しむ赤鬼の姿などを通して、友達を大切にすることについて考え、友達と互いに理解し合い、助け合おうとする心情を育てる。

5年生「ちがいのちがい」(学級活動)

※人の意見をしっかり聞いて自分の意見を言うことの大切さや、人間として侵してはならない権利とは何なのかを考えることができる。

6年生「町人の文化と新しい学問 新しい学問・蘭学 ～医学を支えた人々～」(社会)

※杉田玄白らの真実を追究しようとする強い心が、身分をこえて協力することにつながり、「解体新書」が完成し、さらに医学が発展したことを理解する。



道徳の授業風景(3年生)



社会科の授業風景(6年生)

こどもたちの感想

- 私は国語屋さんをしました。みんなでやって大成功だと思いました。みんなで力を合わせたから成功できました。(1年生)
- 分かったことは、お母さんがへその緒からくれた酸素、栄養のおかげでぼくたちが生きているからこれからもその命を大事にしたいです。(2年生)
- 本当の友達とは、相手のことを考えて、「いけないことはいけない」と注意し合うことができる人のことだと思いました。相手のためにお互い思い合うことが大切だと分かりました。(3年生)
- 赤鬼も一番大切な友達をなくしてとても悲しんでいる気持ちと悔しい気持ちでいっぱいだと思います。私も友達を大切にしたいと思いました。仲の良い友達と一生会えないのは辛いなと思いました。(4年生)
- 私は、毎日の生活で、「あってよい違い」だけでなく、「いけない違い」を友達などにしているかもしれないので、これから、言葉を大切に扱って生活していきたいです。(5年生)
- 医者ではないのに、医者も分からないことを知っていてすごいと思いました。だけど、そんなにすごいのに、どうして差別を受けるのか疑問をもちました。(6年生)





松江市立第二中学校

今年度は10月に人権教育講演会、12月の人権週間を中心に取組を行いました。

人権教育講演会(10月)

今度珠美さん(一般社団法人メディア教育研究室代表理事)を招き「インターネットと人権」という演題で人権教育講演会を開催しました。当日は多数の保護者の方にご来場いただき、生徒とともに「情報を見極めることの大切さ」や「メディアの善き使い手になるための心構え」について学ぶことができました。

生徒と保護者の感想(講演会)

- SNSを利用する際は、誰かを傷つけてしまわないかや発信しても良い内容かどうかをしっかりと考えることが大切だと思います。スマホと適度に距離を置き、勉強するときなどメリハリをつけてメディアを活用していきたいです。(生徒)
- 生まれた時からインターネットやSNSがあたり前のように存在していた中学生に対して、今回の講演のような内容について認識してもらうことは、非常に重要なことであると思うので、今後もこうした機会を設けていただきたいです。(保護者)

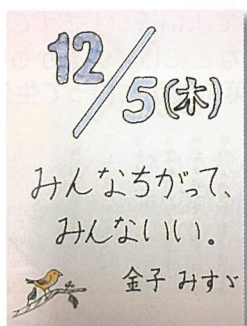


「心ぽかぽかプロジェクト」(12月)

今年は「個性の尊重」をテーマに、生徒会執行部の生徒が脚本・演出を担当した人権劇の上映と生徒会執行部が発案・作成した「心ぽかぽかカードゲーム」を各学級で行いました。人権劇では日常生活で起きうる場面を通して、コミュニケーションのあり方や思いやりのある言動について考えることができました。心ぽかぽかカードゲームでは、カードのお題に従い、友達の良いところや前向きな気持ちになるための言葉がけなどを伝え合いました。また、生徒会執行部が人権に係る日めくりカレンダーを作成し、人権週間の間、教室に掲示しました。

人権教育公開授業(1月)

各学年部で授業の主題や教材を選定して、人権教育の公開授業を行いました。当日は保護者の方々に加え、学校運営協議会や市人権男女共同参画課などからも授業を見に来ていただきました。差別や偏見のない平等な社会の実現に向けて、生徒の人権意識を高めることができました。





島根県立松江東高等学校

松江東高校の人権学習の取組を、「総合的な探究の時間」(1・2年)、「EAST 地域探究」(3年 学校設定科目)と合わせて紹介します。

東高校の「人とつながる」「地域社会の今と未来に関わる」取組



1年5月 総合的な探究の時間

「協調性マインドセット」を
テーマとした学習
チームで協働する準備を行います



2年12月 MATSUE地域探究成果発表会 (会場くにびきメッセ)

「制服デザインで
男女差をなくそう」を
テーマとした発表の場面



3年9月 EAST地域探究

「ふるさとごはんをつなごう」
川津公民館でJAくにびき婦人部と
連携して実施した笹巻づくり

東高校では、1年で「学問の魅力」「松江市の魅力」を調べまとめる活動、2年では「地域課題探究」の活動をそれぞれグループで行い、3年では学校設定科目「EAST地域探究」を選択した生徒一人一人が、川津公民館や川津小学校などに出向いて、小学生などと様々な活動を行っています。

グループで、意見を出し合い、まとめていくためには、自分の意見を発表し、かつ異なった意見でも受け止める態度が大切になります。そのような態度を育むために1年生で行っている授業を紹介します。

1年の人権学習 6月実施「意見を安心して言えるクラスづくり」

安心できるクラスとはどのような状態なのか。クラス全員で考え、安心できるクラスのイメージが共有できたら、グループ活動をより活発にすることができるようになります。

この学習では、下の資料を利用して「乱暴な言動」はクラスの意欲をそぐことを理解することを第一の目標とし、生徒各自が避けるべき「乱暴な言動」をワークシートに書き留めていきます。生徒は「大声をだすこと」も乱暴な言動の一つと書きとめており、平素の行動につながることを期待しています。

乱暴な言動が周囲の人に与える影響を調べるため、実験者が乱暴な態度を取る様子を被験者5名が目撃するという実験を大学で行いました。

実験者は遅刻をした役割の人に、強く大きな声で、「君 おかしいだろう 遅刻なんかして 無責任だ。恥ずかしいのか。社会人失格じゃないかね」と責め立てました。

すると、その乱暴な言動を目撃した被験者5名の仕事の質がかなり下がったのです。

乱暴な言動は風邪のようなもので伝染するのです。その周りにいるだけで 保菌者となってしまいます。

以下省略

「TED ジョージタウン大学 クリスティーン ポラス 講演の日本語訳」

2学期の学習では、自分の意見を、相手に受け取りやすく話すための方法について学習し、3学期には人間関係を断ち切ってしまう人権課題(ハンセン病)を取り上げて学習します。

人権教育の 取り組み

島根県立松江養護学校

校 訓

「明るく」「強く」「なかよく」

学校教育目標

「自立と社会参加を目指し、実社会、実生活の中で汎用性の高い力を培うとともに、自分や他人を大切にしながら、地域の中で力強く生き抜いていこうとする態度を育む」

◆◆◆ 令和6年度の具体的な取組 ◆◆◆

松江養護学校では、「地域との協働・交流の中で、主体的に地域とかかわり、自己や地域の課題と向き合う意欲や態度」の育成を目指しています。地域の「ひと・もの・こと」を活用しながら様々な学習活動に取り組む中で、年間を通して人権教育の推進を目指しています。今回は、中学部の地域との協働・交流の取組を紹介します。

地域を活用した理解啓発活動

松江養護学校中学部では、川津公民館を地域活動の拠点とし、年間を通して様々な活動に取り組んでいます。川津公民館の職員や利用者の方との触れあいを通して、理解啓発につなげています。

川津幼稚園との交流



松江二中との交流



マグネットづくり



クリスマスツリーかざり



仲間とともに自分らしさを発揮する活動

人権教育の取り組みの1つに、仲間とともに支えあい、ともに向上していくことを目的とした活動があります。その活動の1つに、川津公民館を利用し、川津ふるさと太鼓の講師として大坪先生に「川津ふるさと太鼓」を教えていただいています。今年で3年目の活動となります。生徒たちは宮太鼓、締め太鼓、大太鼓のグループに分かれ、約1ヶ月の練習を重ねていきます。川津ふるさと太鼓のリズムやテンポを覚えてくると太鼓を叩く音が大きくなったり、仲間の演奏に意識を向け、息を合わせながら演奏したりする姿も見られるようになっていきます。バチを握り続け、太鼓を叩き続けることで腕が重く感じることもあるようですが、仲間とともに力いっぱい太鼓の演奏を行うことで充実した表情が見られます。



練習した成果を、
音楽発表会で披露しています。

「川津ふるさと太鼓」
団員募集のポスター
のキャラクターに、生
徒がデザインした絵
が採用されました。



バチカッパ



大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科(松江キャンパス)

令和6年度は、川津地区にある「松江養護学校」に行き、子ども達や先生方と農業体験やビーズの製作等、共に学ぶ機会を設けました。保育・幼児教育に限らず、放課後等デイサービスや障がい者の就労施設等に就職する学生たちにとって、先生方から養護学校の生活や学びの様子、社会的な役割をお聞きすること、実際に子ども達と関わることは貴重な体験で、大きな学びの機会となりました。

また、「学び舎ぽっ」との峠優子先生にお越しいただき、特別なニーズを持つ子ども達のために、身近な生活用品を利用した玩具を考案し紹介し合ったり、寒天ゼリーや片栗粉で感触遊びを行ったりすることで、様々な感覚を学び合いました。子どもも大人も一人ひとり、思いや願いをもっています。学生の皆さんには、障がいがある、なしに関わらず社会を支える一員として、関わる子どもや保護者、地域の方々、それぞれが大切にしているモノやコト、何よりヒトの心を見つめる目を養いながら、共に楽しみ、受け止め合う体験を積み重ね、育ってほしいと願っています。



学生の感想

- 子どもの個人差に合わせ、一緒に遊ぶことで信頼関係を築くことが大切だと思いました。
- 子どものやってみたいという気持ちが発達につながるため、一人ひとりの好きなことから玩具を選んだり、子どものペースに合わせた玩具から五感の刺激を促す必要があることが分かりました。
- 子どものやりたい気持ちが出てくるには、まずは保育者や友達と繋がり満たされることが必要だということに気が付きました。

松江キャンパスの紹介

本学科は、2004年から2017年まで安来市および松江市で保育士養成を行っていた「学校法人広瀬学園島根総合福祉専門学校 児童福祉科」を前身としています。2018年以降は「学校法人みどり学園大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科」として、保育士や幼稚園教諭の養成を行っています。大阪という名がつくものの、入学する学生の多くは松江市や出雲市の出身で、卒業後はほぼ全員が島根県や鳥取県の、保育所をはじめとする児童福祉施設や幼稚園の現場で活躍しています。

本学科では、地域に開かれた短期大学を目指し、親子(乳幼児)をはじめとして、たくさんの地域の方々を対象としたイベントを開催しています。島根県の私立短期大学として、本学科を少しでも身近に感じていただければ幸いです。

令和7年度の地域向けのイベント紹介として、市民公開講座を5回予定しております。

	日 時	担 当	内 容(予定)
第1回	5月10日(土) 14時～	福祉哲学研究所所長 秋山 智久	老後破産・貧困・生活保護
第2回	7月12日(土) 14時～	福祉哲学研究所所員 有地 立夫	高齢者の介護・施設生活 —その苦しみと喜び—
第3回	9月23日(火・祝) 10時～	大阪健康福祉短期大学 加藤 友彦	絵本とアート
第4回	11月8日(土) 10時～	大阪健康福祉短期大学 舟越 美幸	心の拠り所になる大切な人やコミュニティ
第5回	1月24日(土) 10時～	大阪健康福祉短期大学 増原 真緒	乳幼児期に必要な絵本選択の視点

その他、10/19(日)は、「第2回 OKFふえす」を開催します。前回は、動物ふれあいコーナーや楽器作りと演奏会が大人気でした。12月初旬には「総合表現」発表会を開催します。皆さま、ぜひ本学に足をお運びください。

人権教育の 取り組み

川津地域人権・同和教育推進協議会

川津地域人権・同和教育推進協議会では、同和問題をはじめ、様々な人権課題の理解を深めるため、川津地区や他地区の皆さんと一緒に研修会などを通して学びを深めています。今回はその一部を紹介します。

令和6年

6/20

地区研修会

内容：避難所運営ゲーム(HUG)

講師：松江市男女共同参画センター職員・サポーターの皆さん

避難所に見立てた平面図をつかって、避難所に次々とやってくる被災者や様々な情報などをもとに、男女共同参画の視点を入れながらどう対応していくかを、グループに分かれての「避難所運営シミュレーションゲーム」において体験しました。

参加者の
感想(概要)

- 避難所では、人権的な問題が次々起きているのだと気付くことができた。
- 様々な視点から、みんなが安心できる避難所運営について考えることができた。



避難所の状況は刻々と変化。



トイレはどこに設置する？

令和6年

11/6

朝酌・川津地区交流視察研修会

視察先：岡山人権啓発センター、渋染一揆資料館など

渋染一揆について、職員の方の分かりやすいお話、また古文書や渋染めの着物などたくさんの資料を通して感じることは、差別されていた人々が「人間の尊厳」をかけ、平等を求めて闘うという強い心意気でした。

参加者の
感想(概要)

- 講師の方の話も上手で良くわかりました。
- 大変有為な勉強になりました。まだ学び足らぬことが多いことを実感しました。



江戸末期に起こった
渋染一揆について学習しました



渋染一揆記念碑を見学しました

令和7年

2/22

菅田会館・川津地区合同研修会

演題：現代に生きる小泉八雲とセツ そして「怪談」

講師：小泉八雲記念館 館長 小泉 凡さん

小泉八雲の「オープン・マインド」(自分だけの価値観で物事を解釈せず、多様性を尊重する心)の精神は、人権同和教育に通じるものが多く、「オープン・マインド」の視点から改めて人権について考えることができました。

参加者の
感想(概要)

- かなり昔から多様性について考え、発信しておられたハーンや、オープンマインドの心で人と人とのつながりを大切にする姿に感動し、もっともっと深く知りたいと思いました。
- 八雲の思想を通じて、現代に通じる多様性、開かれた考え方…大変興味深かったです。



「オープン・マインド」の
精神を学びました

※その他、市・県主催の研修会や地域内教育機関の公開授業等にも参加しました